



今回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)

「高宮駅から、歴史と文化を発信していきます」

高宮駅コミュニティセンター運営委員会 委員長 馬場武司さん(高宮町)

高宮駅は、近江鉄道開通以来104年の歴史がある駅です。かつては、犬上郡の物産を出荷する貨物輸送を大きな役割とし、また、多賀大社への分岐点として大いに賑わいました。

開駅以来の古い駅舎は役割を終え、3月29日に新しい駅舎が竣工しました。待合いを兼ねたコミュニティホールやギャラリーなどが「高宮駅コミュニティセンター」として併設されました。

コミュニティセンターは、165・56mの広さを持つ立派なもので、運営を任せられた私たちは、せつかくの施設を有効に活用していこう

と意気込んでいます。

運営委員会は、連合自治会、文化協会、街づくり推進委員会など、町内のさまざまな団体から委員が出て構成されています。「駅から豊かな歴史と文化を発信していこう」と、アイデアを練っています。

現在は、「高宮太鼓祭りフォトコンテスト」入賞作品の展示や、中山道400年を記念して開催される「彦根市中山道(鉄道) 絵画・写真コンテスト」の入賞作品の展示などを考えています。皆さん、電車で高宮にお越しの時は、ぜひギャラリーにお立ち寄りください。



馬場さん

現在は、高宮の伝統的なお祭り「高宮神社春期大祭(太鼓祭り)」や高宮町内の名所・旧跡の写真が展示されています。▼



▲絵本を生かすため、黒い服を着ます



藤井さん

「絵本は、別の世界に連れて行ってくれます」

ひこね児童図書研究グループ 藤井スミ苑さん(大藪町)

「さあ、ここをお話の世界にしましょう。」司会の人がそう言って、子どもたちの前に置いてある1本のろうそくに火をつけます。窓に暗幕が張られて真っ暗だった部屋が、灯に照らされてぼんやり明るくなり、みんなの期待感に満ちた顔が映し出されます。

私たちのグループが図書館で催している「楽しいおはなしのつどい」「絵本をたのしむつどい」はこうして始まります。4月6日には、私と富永美砂穂さん、種橋尚子さんの3人で、絵本を読み聞かせたり、パネルシアターを演じたりしました。

ひこね児童図書研究グループ(代表・北野幸子さん)

は、「子どもたちによい本を紹介したい、手渡したい」という思いで23年前から活動を続けてきました。図書館での催しのほかに、幼稚園、保育園、小学校、盲学校などで、1年に40回ぐらい、絵本の読み聞かせなどを行っています。

子どもたちは絵本が大好きです。絵本のページを開くだけで、たちまち楽しいお話の世界に連れて行ってくれます。豊かな言葉の世界は、子どもたちの表情まで豊かにしてくれます。

最近では、絵本は「心のぬくもり」につながるとも言われています。絵本なんて関係ないと思っている人も、一度手に取ってみてはいかがでしょうか。